

『当院のチームにおける臨床工学技士の役割と問題点、未来展望』

斗南病院 臨床工学部

石田 稔

内視鏡外科手術は増加傾向になり、適応も拡大傾向である。また医療機器においても新しい機能を有する機器が年々開発販売され、難易度の高い手術が可能となってきた。

その内視鏡外科領域の周辺機器に対して臨床工学技士は機器の始業点検や終業点検を始めとする保守点検やトラブル時の一次対応として大変大きな役割を担っていることは周知の事実である。その基となるのは2012年に日本臨床工学技士会から出された手術室領域における業務別業務指針であろう。2012年を境に腹腔鏡手術周辺機器の保守管理に関する指針が出されてか日本全国の医療機関で保守管理が始められた。

当院は2009年より2名の臨床工学技士が内視鏡外科領域の周辺機器に対して始業点検や終業点検を始めとする保守点検を開始した。

これまでの当院のチーム医療における臨床工学技士の取り組みからその役割と問題点、未来展望を述べる。